

## 第1回 日本の書物史と E-Book

はしぐち こうのすけ  
橋口 侯之介



江戸時代以前の和本と、現在進展する電子書籍E-Bookとは相容れない仲ではない。むしろ、これからの書物に求められるのは和本の世界にあった多様な本の楽しみ方である。そのためには、まず江戸の書物を知り、その実態を解明しながら考えるべきである。

**自己紹介:** 本職は神田神保町の古本屋・誠心堂書店主人。その経験を生かして2005年に平凡社から『和本入門—千年生きる書物の世界』を出版。翌年から成蹊大学の学部と大学院で「文献学共通講義」等で講義するようになった。その後『続和本入門—江戸の本屋と本づくりと』（いずれも現在は平凡社ライブラリー）。2011年6月『和本への招待』（角川選書）を上梓。

### 江戸時代の本屋とは

江戸時代の開始とともに西暦 1600 年代に日本では本屋による商業出版が始まった。その後、二百数十年間、めざましく発展し、広大な書籍の世界が出現した。日本人を本好きにした基礎はここでできた。

江戸の本屋の特徴は、出版元であり、流通問屋も兼、店では他店の品を含めて小売販売もした。さらに古本屋でもあり、貸本もそていた。すなわち、本のことなら何でも商いをしていたのだ。顧客は読者であることはもちろん、同時に作者でもあり、蔵書を売る者でもあった。本を売る側と読む側との関係は密接だった。

### 木版・和装本から活版・洋装本へ

250年続いてきた江戸の書物文化は明治とともに衰退した。それまでの本屋は撤退し、かわってあらたな出版社が登場した。それが現代にいたる。この明治期の変化は、江戸時代が終わってすぐ現れたわけではなかった。10年、20年かかったのである。それは和装本から洋装本へ、木版印刷から活版印刷へ、和紙から洋紙へとといった外見上の変化も大きかったが、むしろ、本にかかわる人間の意識の根本から変わってしまったことが大きな原因だった。流通のありかた、読者側の要望の変化、政府の介入など、江戸時代の本屋が継続することは難しい時代だった。そのため、新たな担い手が出版に携わるようになったのである。

### 現代とどこか似ている

この明治の変化で見られた現象は、現代、再び違う形であらわれている。すなわちE-Bookへのシフトである。それは、紙に印刷された媒体がデジタル化したという形態上の変化だけではない。むしろ、その底でうねるように変化しようとする問題にこそ、本質がある。

そのひとつは、流通の革命的な変化。書店を通して買わないで、ダウンロードで買うようになる。

活字離れが問題なのではない、書物が有効な媒体になるかどうかだ

EBook 2.0 Forum ネット上の電子書籍問題のフォーラムがあり、そこに橋口の論「書物における明治20年問題」が掲載されている→ <http://www.ebook2forum.com>

## ▼ 授業の計画 ▼ 変更あり

1. オリエンテーション 電子書籍と和本
2. 電子書籍E-Bookの規格Epubとサイバー図書館
3. 和本の楽しみ方1 平安時代の物語
4. 和本の楽しみ方2 絵巻物
5. 和本の楽しみ方3 演劇と書物
6. 和本の楽しみ方4 黄表紙
7. 日本の古典籍事情 DVD
8. 日本の古典籍事情2 大市
9. 江戸の特殊な書物事情1 本と草紙
10. 江戸の特殊な書物事情2 板木と出版権
11. 江戸の特殊な書物事情3 明治二十年問題
12. 変体仮名・くずし字 最新アプリ
13. E-Bookにどう採り入れるか
14. これからの書物とは
15. レポート

講義の要旨はpdfにするので、各自がダウンロードすること。

[http://www.book-seishindo.jp/seikei\\_tanq/](http://www.book-seishindo.jp/seikei_tanq/)



## 成蹊大学日本探求特別講義2013Bレジュメ

橋口 侯之介

[http://www.book-seishindo.jp/seikei\\_tanq/](http://www.book-seishindo.jp/seikei_tanq/)

2013年後期 日本探求特別講義A

### 和本と電子書籍へ

1 電子書籍と和本の関係

9月27日

### 参考:エッセイ

1\* 和本を調べる楽しみ

110号所載

2\* 和本を調べる楽しみ2 古本の市場

111号所載

雑文

<和本で  
観>

古活字版

明治:  
月

質問は、専用メールでいつでも。 khashi@s.email.ne.jp

#### 参考文献

- 『和本入門—千年生きる書物の世界』2005、橋口侯之介、平凡社ライブラリー、1470円  
『江戸の本屋と本づくり—続和本入門』2007、橋口侯之介、平凡社ライブラリー、1470円  
『和本への招待』2011、橋口侯之介、角川選書、1,680円